

# 授業研究



問題の提起・算数科  
主体的な学びを引き出す

算数科の授業づくり

—— パフォーマンス課題を活用した「逆向き設計」論で  
創り出す単元計画づくりを通して ——

広島大学附属小学校教諭

竹内 達也



指導案や写真  
などの資料が  
ご覧いただけ  
ます。ぜひこ  
れを利用ください。

## 一 はじめに

現行の学習指導要領において、今回の改訂の基本指針の中に書かれている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められている。また、各教科等の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示された。

これを受けて、算数科の授業づくりにおいて、児童自

らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりするなどの「主体的な学び」を実現することを目指した授業展開を目指している。本研究の仮説として、パフォーマンス課題を活用した「逆向き設計」論による授業づくりを行うことで、児童の主体的な学びを引き出し、問題解決能力の向上を促すことができるのではないかと設定し、本授業を実践することとした。

## 二 単元計画づくり

### 1 単元名について

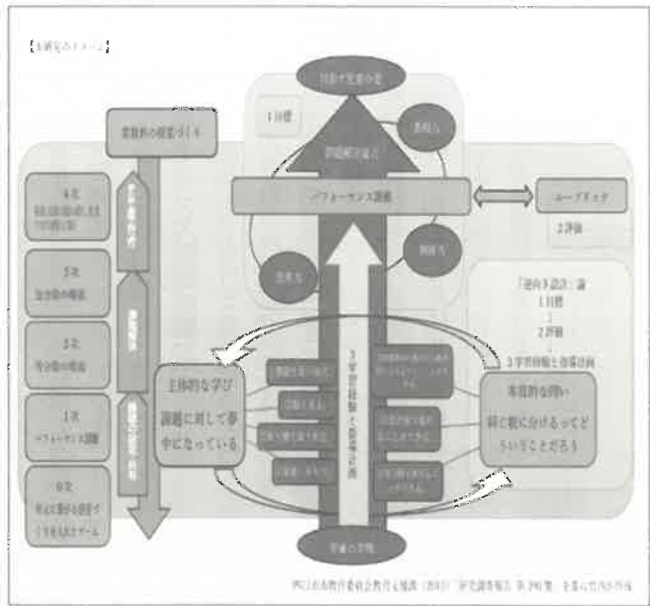
「手がかりをもとに上手にわけて、スポーツ大会を開こう！」（第三学年「わり算」）

### 2 単元について

本単元では、除法に関わる数学的活動を通して、除法の意味および除法と乗法や減法の意味について理解させるとともに、除数と商が共に一位数である除法の計算を学習する。このとき、計算の仕方を形式的に知るだけでなく、除法の計算の仕方を主体的に考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだし、その性質を計算の工夫や確かめに活用したりするとともに、日常生活に生かす態度を育むことを学習内容としている。そこで、本単元では、これまでの乗法の学習を基に、除法が用いられる場面における等分除と包含除の操作の違いに着目しながら、除法の式に表したり、言葉による表現や具体物を用いた操作活動などを通して、既習の知識や経験を結びつけ、解決の見通しをもったり、根拠を明確にしながら解決しようとする力を育成することができることをねらった。

て単元を構成することとした。

本実践では【図①】のように、課題設定として、児童の日常生活を想起したパフォーマンス課題を用いて、学習意欲を高めるとともに、単元を通して「学習のつながり」を意識した単元構成を行うこととした。



【図①】本実践のイメージ